

第30回

うつのみやこども賞だより

平成25年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『狛犬の佐助 迷子の巻』

伊藤遊／著（ポプラ社）

『パンプキン・ロード』

森島いずみ／作（学研教育出版）



～読んだ本の感想より～

- すごいおもしろかったです。こうへいとモモ、親方と佐助の友情がいい！モモのために、モモの家へつれて帰らなかったこうへい、佐助のために口の中の玉を捨てる親方の信らいがすごくいいと思います。
 - 短い文の中に沢山の思い、行動があっという間と思った。
 - 佐助はモモをさがすために一生けんめいだったことが感動した。
- 本当に、ハラハラ、ドキドキしました。親方が佐助を助けて神社にもどれたときは、なみだがでてしまいそうになりました。
- 狛犬に魂がのりうつっているのがおもしろい。また、佐助が翔太の助けをかりて、犬を探すところがすごい。佐助はとってもやさしい狛犬だと思った。
- 私も佐助を見てみたくなりました。



- 東日本大震災で母を失った早紀がおじいさんの家に行き、「たいせつなもの」をさがす旅。心がほっこりして、いい本だと思う。
- 最後に、「目には見えないがたいせつなもの」の意味が分かってよかった。
- この話はとてもしみりとして、「命の大切さ」を伝えているのだと思います。おじいさんの家の自然がまた「命の大切さ」をよりいっそう深めているのだと思います。
- この話は「東日本大震災」でお母さんを失って、日々をすごしていったことをテーマにしています。主人公の悲しみなどの感情が共感できました。
- 母を亡くした早紀が、みんなに助けられて、しっかりと母の死に向き合っていく様子に感動しました。最後には「おじいさんとならがんばれる」と早紀が思っていたので、良かったです。

『予知夢がくる！』 東多江子／著（講談社）

- 予知夢を見て、その人のために、がんばる鈴ちゃんがすごいと思ったし、予知夢を見てみたいと思いました。
- お話を読む前は、「わたしの予知夢を見てみたいな。きっと楽しいことばかりなんだろうな」と思っていたけど、何ごと苦勞はつきものなんだなあということがわかった。
- 鈴は、「予知夢」になやませられながらも、こまっている女の子を助けてあげて臆病だけど優しくて勇気があると思いました。

『ロボット魔法部はじめます』 中松まるは／著（あかね書房）

- ゲーム機を返してもらうためにロボットダンスをやってみたのに、最後はクラブをつくってしまうのがおもしろかった。
- 何度もロボットを作るのに苦勞したことが書かれていておもしろかったです。
- この本をよんで、人生はいろいろなことがあり、いろいろな人がいるんだなとおもいました。そして、わたしも人をたのしませるなどのまほうがつかえることがわかりました！
- 表彰はされなかったけど、表彰状よりもたくさんの拍手があっという間だった。

2013年6月2日